

子ども達と本

柏館 直子

柳田先生、初めまして。小学生二人の母です。

今年は絵本に関する出来事がいくつかありました。

一つ目は、息子の入学です。園児の頃から落ち着きがなく、入学後も教室で嫌なことがあると廊下に出してしまうことがあったそうです。でも歩くとすぐ図書室があり、自分が好きな絵本を読んで落ち着くと戻ってこられたことにより、現在、学級文庫のすぐ前に座らせてもらって教室で落ち着いてすごせるようになったとのことでした。

二つ目は、読み聞かせの先生との出会いです。通っていた保育園、市立図書館で読み聞かせに来て

くれていた方々が小学校にも来ると知り、姉がうれしそうに、毎月の本の話をしてきています。その中でも子ども達をかわいがってくれていたお姉さんが半年前病気で亡くなりました。読み聞かせ中に息子が興奮して声を出しても、「いいのよ、ワクワクする本だものね!」と優しく対応して下さいました。読書の扉は誰にでも開かれていて、その楽しみ方もそれぞれ違っていい、と教えてくれた大切な人です。

現在家族で週一回のペースで図書館へ行きますが、夏休みは隣の図書館にも足を運んでみました。館内の音楽や本の展示の仕方にも違いがあり、いつもの図書館にはない絵本も楽しめて子ども達は二時間いても帰る気にならない様子です。息子はどの図書館でも恐竜の本を探す大の恐竜好きで

すが、くり返し親子で読んでいるのが、宮西達也さんの「あなたをずっとあいしてる」です。園児の頃息子が「これ読んで」と持ってきて、涙で最後まで読めなかった思い出の本です。登場する複数の恐竜それぞれの立場になって考えることは、息子には難しいと思っていましたが、彼なりに何か感じてもらっているようでくり返し、真剣に見つめます。

本と、多くの支えとの出会いで、子ども達が豊かに育ってくれています。新しい出会いも、再会も楽しみに、今日も図書館へ・・・。